

# TAPINSYSTEMS

Tap In Systems, Inc.のクラウド管理サービス

## システム管理者ユーザガイド

Tap In システム管理サーバの管理者用

Version 0.3a running on Amazon EC2 Linux

Copyright 2008-2009 Tap In Systems, Inc. ("Tap In"). All rights reserved. Use is subject to Tap In license terms. This software and documentation is sold and distributed without warranty of any kind, either express or implied, including but not limited to the implied warranty of merchantability and fitness for a particular use. Neither the author nor any licensor assumes any liability for any alleged or actual damages arising from the inability to use this software or documentation.

## 目次

本資料は Tap In System 管理サーバを使って管理環境の監視に責任を持つシステム管理者やマネージャーのための管理リファレンスを記述しています。

他のTap In Systems CMS の申し込みと使用開始方法について説明する *Quick Start Guide* や Tap In Systems コンソールアプリケーションのための *QuickView User Guide* と、*Reports User Guide* を含む Tap In Systems のガイドは Tap In のWEBサイトで参照することができます。

イントロダクション .....	3
Tap In Systems の管理について .....	3
管理サーバーの起動 .....	4
前提条件 .....	4
ログイン .....	4
Tap In 管理サーバのホームページ.....	4
ログアウト.....	4
<b>Control を使う.....</b>	<b>5</b>
管理サーバコマンド .....	5
管理サーバ構成の更新 .....	7
<b>Configuration を使う.....</b>	<b>8</b>
Configuration インスタンスの生成 .....	8
サーバのプロパティ .....	9
Configuration インスタンスの管理 .....	10
管理対象ホスト.....	14
タスク管理 .....	15
ユーザ管理 .....	20
ユーザーフィルタ管理.....	22
用語集 .....	23
Tap In 用語 .....	23
付録 .....	25
シェルコマンド.....	25
イベントバス・コマンド.....	25
Web アプリケーションコマンド .....	25

## イントロダクション

### Tap In Systems の管理について

Tap In 管理サーバは Tap In Systems 製品スイートの中核製品であり、さまざまなネットワーク、システムおよびアプリケーションについての監視とコントロールを提供します。本サービスではシステム管理イベントを受信するのにローカルとリモートのプログラムが利用できます。ローカルのスクリプトを実行するためには、実行とスケジュールパラメータを設定する必要があります。リモートスクリプトは、このサーバへのイベントを送るよる認証されている必要があります。Tap In の QuickView コンソールアプリケーションなどの顧客アプリケーションも Tap In 管理サーバからのイベントを読むために認証されている必要があります。

Tap In 管理サーバは、Tap In Systems の CMS の一部ですので、追加インストレーションは不要です。本ドキュメントに記述された管理作業は、ブラウザかセキュアシェル (SSH) セッションを介して行われます。使用するホスト名は、*Tap In CMS Quick Start Guide* で記述されているように、サービス開始時に Tap In 管理サーバに割り当てられます。

このドキュメントでは、Tap In 管理サーバの CONTROL と CONFIGURATION オプションについて詳しく説明します。

**Control** オプションは、Tap In 管理サーバのコントロールと更新のためのコマンドを提供します。このオプションでは稼働中の構成設定状態を表示し、また、定義済みの構成を選んでそれを稼働構成設定としてイベントバスにプッシュすることができます。このふたつについて、管理サーバコマンドおよび、管理サーバ構成の更新コントロールの各ページで説明します。

**Configuration** オプションは、Tap In 管理サーバの構成（単一および複数の構成）定義をすることができます。ここでは、サーバプロパティ、コンフィギュレーションインスタンスの管理、ホストの管理、タスクの管理、コマンドの管理、通知、ユーザの管理およびユーザーフィルタの管理を説明します。

## 管理サーバの起動

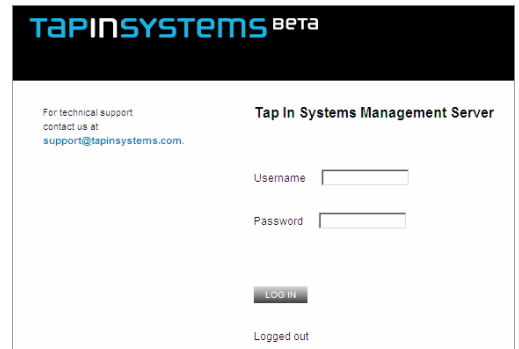
Control と Configuration 作業は Tap In Systems 管理サーバの Web インタフェースで行われます。

### 前提条件

- ブラウザ – Web インタフェースは Firefox version 3.0 と Internet Explorer version 7 用にされています。ブラウザ上で JavaScript が実行可能である必要があります。
- Tap In 管理サーバ – あなたの Tap In 管理サーバ名を知る必要があります。
- Tap In 管理サーバの Web インタフェースのアクセスに、正当なログインとパスワードが必要です。新サービス開始時のデフォルトのユーザ名とパスワードは、**peter** と **peter** です。

### ログインする

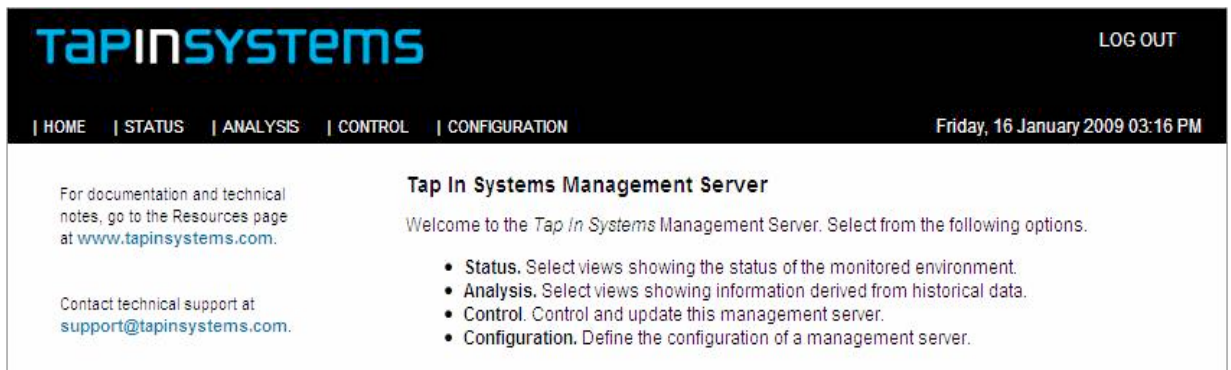
- ブラウザで URL <http://<hostname>> を開きます。この hostname は Tap In 管理サーバのホスト名で、一般的な形式は [<name>.tapinsystems.net](http://<name>.tapinsystems.net) です。
- ログイン画面が表示されます。設定したユーザ名とパスワード（ないし、デフォルト **peter, peter**）を入力します。



### Tap In 管理サーバのホームページ

管理サーバにログインすると、ホームページが表示されます。下記の図と文で、さまざまなメニューオプションと階層を説明します。このガイドでは CONTROL と CONFIGURATION オプションを説明します。

図: 管理サーバのホームページ



- **STATUS** – このオプションは監視環境のステータスを表示するレポートを提供します。ビューのタイプには、*Open Events*、*Components View*、*Group Views* とクラウドベンダ固有のアドオンビューおよびカスタムコンポーネントが含まれます。詳しくは *Tap In Reports Guide* を参照ください。
- **ANALYSIS** – このオプションは履歴データから得られる情報を表示するレポートを提供します。ビューのタイプには、*Event List*、*Historical Reports* とクラウドベンダ固有のアドオンビューおよびカスタムコンポーネントが含まれます。詳しくは *Tap In Reports Guide* を参照ください。
- **CONTROL** – Control は、さまざまな管理サーバコマンドを実行する *Management Server Commands* と *Update Management Server Configuration* オプションを提供します。
- **CONFIGURATION** – この主要オプションは、サーバプロパティ、コンフィギュレーションインスタンスの管理、ホストの管理、タスクの管理、コマンドの管理、通知、ユーザの管理およびユーザーフィルタ管理などの、管理サーバのシステム構成設定を行えるようにします。

### ログアウト

すべてのページの右上端に表示されている LOG OUT リンクを選択することで、いつでも管理サーバをログアウトすることができます。

## CONTROL を使う

**Control** オプションは、*Tap In 管理サーバ* のWebサービスインタフェース上のアクションを起動するコマンドや機能のページを提供します。

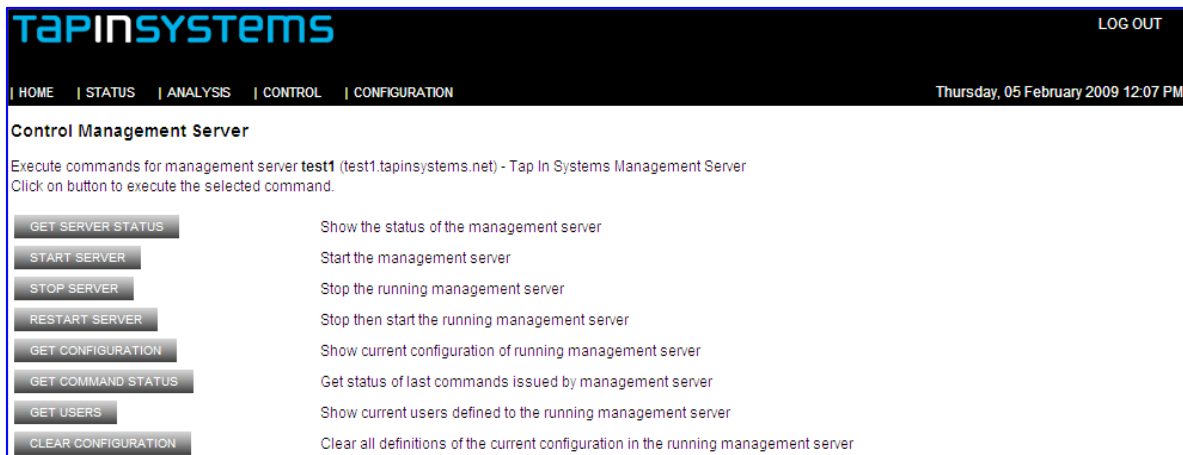
*Tap In 管理サーバ* のイベントバスコンポーネントは、Web サービスコマンドによってコントロールされるJava アプリケーションです。 **When actions are executed in the Control** ページでアクションが実行されると、Webサービスコマンドが実行されて、イベントバスによって読み出されて、その応答が表示されます。

管理サーバのイベントバスコンポーネントは、同時にはひとつだけの実行構成を含みます。この構成は、スケジュールして実行するコマンド、コマンドを実行する対象のターゲットホストおよび、管理サーバ上で実行する正式なユーザが構成されます。

### 管理サーバのコマンド

**Control – Management Server** コマンドのメニューオプションは、下図のページを開きます。 このページは管理サーバに対して実施できコマンドを一覧表示します。 コマンドを選ぶと、現在の*Tap In 管理サーバ* のためのコマンドが実行されます。 下図内の各オプションについて詳しく説明します。

図: Control – Control Management Server



#### Get Server Status (サーバ状態取得)

このオプションは、管理サーバの状態を表示します。

たとえば:

Server running. Server child process 2260 is running. Server child process 2341 is running. 2 child processes running. Gateway is running.

#### Start Server (サーバ起動)

このオプションは、現在の**Configuration**のサーバ属性で構成されている管理サーバ設定を開始します。

#### Stop Server (サーバ停止)

このオプションは、稼動している管理サーバを停止します。

#### Restart Server (サーバ再起動)

このオプションは、稼動している管理サーバを停止して再起動します。

#### Get Configuration (構成の取得)

このコマンドは、稼動中の *Tap In 管理サーバ* に現在ロードされている構成を表示します。 下図は、管理サーバ *Test1* の例を示します。 表示の各行は、管理サーバ上で実行されるアクティブスクリプトと実行パラメータを表します。

図: Control Management Server: Get Configuration

test1										
catRule	commandName	dates	directory	hostName	parentName	scheduleName	scriptArguments	scriptName	serviceName	times
+	/usr/local/tapin/scripts/check_icmp	xx[5]		localhost		localhost__icmp	-w 200,80% -c 600,100% -H 127.0.0.1	icmp	icmp	
+	/usr/bin/perl	xx[1]		localhost		localhost__dblogger	/usr/local/tapin/scripts/getalams5f.pl -u dblogger -p 12345	dblogger	dblogger	
+	/usr/local/tapin/scripts/check_http	xx[5]		localhost		localhost__http	-w 5 -c 20 -H 127.0.0.1	http	http	
+	/usr/bin/perl	xx[2]		localhost		localhost__rrdlogger	/usr/local/tapin/scripts/processupdates5f.pl	rrdlogger	rrdlogger	
+	/usr/bin/perl	xx[5]		localhost		localhost__groupcounts	/usr/local/tapin/scripts/groupprds.pl	groupcounts	groupcounts	
+	/usr/local/tapin/scripts/check_icmp	xx[5]		10.254.34.192		10.254.34.192__icmp	-w 200,80% -c 600,100% -H 10.254.34.192	icmp	icmp	
+	/usr/local/tapin/scripts/check_ssh	xx[5]		10.254.34.192		10.254.34.192__ssh	+t -H 10.254.34.192	ssh	ssh	

### Get Command Status (コマンド状態取得)

このコマンドは、Tap In 管理サーバが最後に実行したコマンドのステータスを表示します。そのコマンドはロードされた構成によって定義されます。この表示の各行は、サーバによって実行スケジュールされているアクティブスクリプトとその最新の実行結果を現します。

図: Control Management Server: Get Command Status

test1										
code	finished	hostName	output	parentName	scheduleName	scriptName	serviceName	started	time	
0	2009-02-05 14:10:40.339		Connected to Spider. Group count calculations completed in 6 secs.   time=6		localhost__groupcounts	groupcounts	groupcounts	2009-02-05 14:10:32.184	7388	
2	2009-02-05 14:10:37.309		CRITICAL - 10.254.34.192: rta nan, lost 100% rta=0.000ms;200.000;600.000;0; pl=100%;80,100;;		10.254.34.192__icmp	icmp	icmp	2009-02-05 14:10:32.184	4195	
0	2009-02-05 14:10:33.233		HTTP OK - HTTP/1.1 301 Moved Permanently - 0.002 second response time  time=0.001796s;5.000000;20.000000; 0.000000 size=373B;;0		localhost__http	http	http	2009-02-05 14:10:32.184	164	
0	2009-02-05 14:10:33.233		OK - 127.0.0.1: rta 0.025ms, lost 0% rta=0.025ms;200.000;600.000;0; pl=0%; 80,100;;		localhost__icmp	icmp	icmp	2009-02-05 14:10:32.184	163	
2	2009-02-05 14:10:35.428		CRITICAL - Socket timeout after 2 seconds		10.254.34.192__ssh	ssh	ssh	2009-02-05 14:10:32.336	2327	

### Get Users (ユーザ取得)

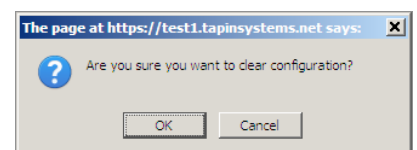
このコマンドは、Tap In 管理サーバ内で定義されたユーザを表示します。コマンドはロードされた構成によって定義されます。各行は、実行中のサーバで定義されたユーザを表します。

図: Control Management Server: Get Users

test1			
filter	password	role	username
null	12345	consumer	dblogger
null	admin	superuser	admin
null	peter	consumer	peter
null	12345	mediator	test-m

### Clear Configuration (構成のクリア)

このオプションは実行中の管理サーバの構成をクリアします。このコマンドを選ぶと、確認のためのダイアログボックスが開きます。確認のアクションとして **OK** を選ぶと、すべてのスケジュールされたスクリプトは実行されず、すべてのサーバユーザがクリアされます。誤って、このオプションを選んだ場合、次のセクションで述べるように、設定をリロードするため、管理サーバにあなたの構成をプッシュしてください。

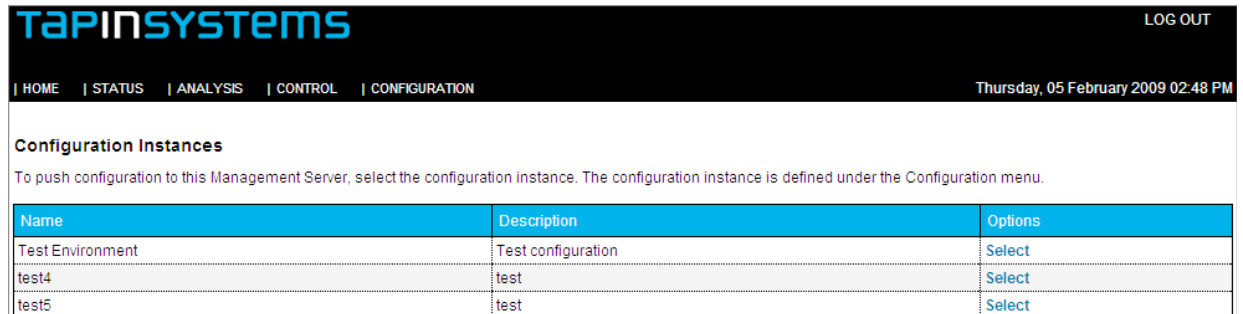


## 管理サーバ構成の更新 (Update Management Server)

**Control - Update Management Server** の **Configuration** メニューオプションは、すべての定義された構成インスタンスの一覧を表示します。管理サーバは、同時にはひとつの構成のみを含みます。このオプションは、**Configuration** メニューオプション下で定義された、どの構成インスタンスが実行構成として導入されるかを、あなたが選べるようにします。

Tap In 管理サーバへロードしたい構成インスタンスのホスト名の隣の **Select** をクリックしてください。

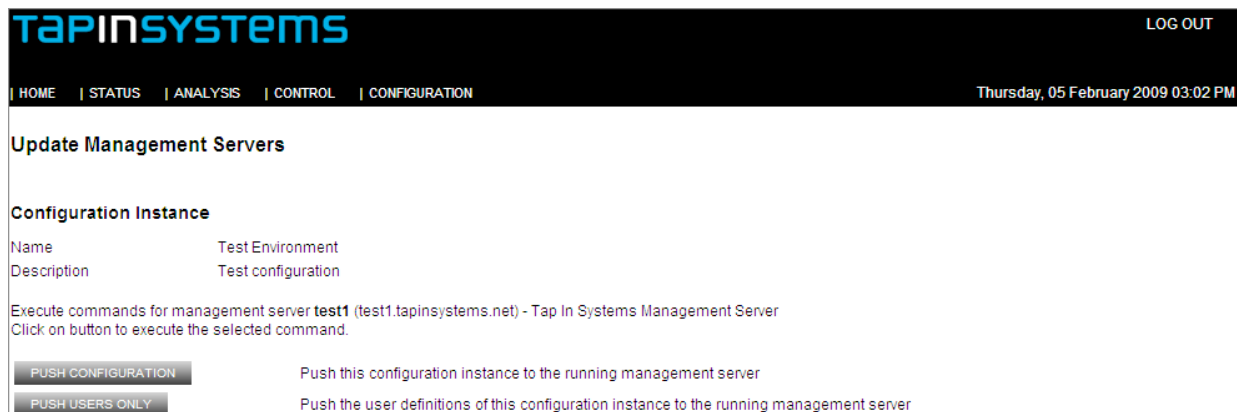
図: Update Management Server Configuration: Configuration Instances



Name	Description	Options
Test Environment	Test configuration	Select
test4	test	Select
test5	test	Select

下図は、選択された構成インスタンス情報を示し、この管理サーバのためのコマンド実行ができます。**PUSH CONFIGURATION** を選択すると、この構成を実行中の管理サーバに、この構成インスタンスをプッシュするでしょう。**PUSH USERS ONLY** を選択すると、ユーザ定義のこの構成インスタンスをプッシュするでしょう。

図: Update Management Server Configuration: Example: Push Configuration



**Update Management Servers**

**Configuration Instance**

Name                    Test Environment  
Description            Test configuration

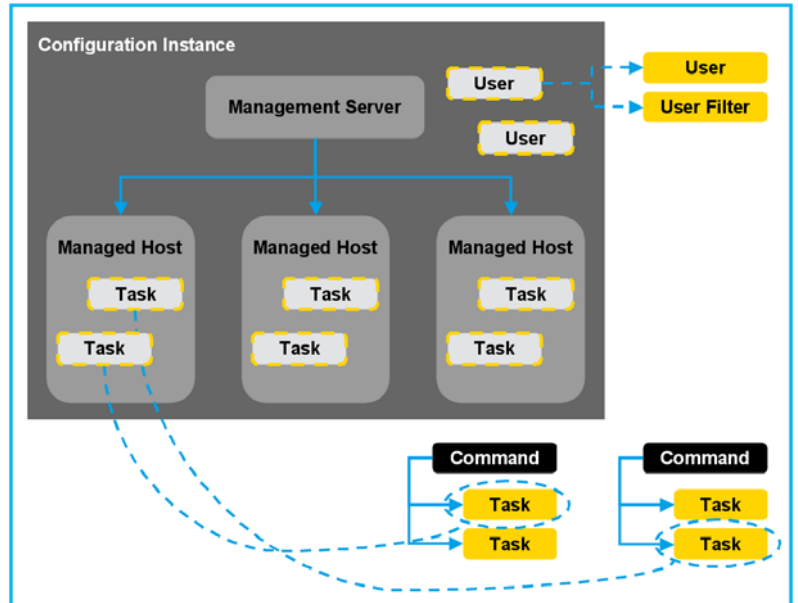
Execute commands for management server **test1** (test1.tapinsystems.net) - Tap In Systems Management Server  
Click on button to execute the selected command.

**PUSH CONFIGURATION**                    Push this configuration instance to the running management server  
**PUSH USERS ONLY**                        Push the user definitions of this configuration instance to the running management server

## CONFIGURATION を使う

*Configuration* オプションで、管理サーバ構成（または、複数構成）の定義や更新ができます。このセクションでは、*Server Properties*、*Manage Configuration Instances*、*Managed Hosts*、*Manage Tasks*、*Manage Commands*、*Notifications*、*Manage Users* と *Manage User Filters* を説明します。

右の図は、このセクションで定義する、各種の構成オブジェクトの関係を示します。



### 構成インスタンスの作成

構成インスタンスが定義されると、実行中の管理サーバに導入するために、*Control* メニューオプションを使用することができます。

1. *Server Properties* オプションを使って、Tap In 管理サーバのプロパティを定義します。
2. *Manage Configuration Instances* オプションを使って、新規の構成インスタンスを追加します。
3. この管理サーバ上で実行するアクティブチェックを定義します（任意）：
  - まだない場合、*Manage Commands* オプションを使って、実行させたいコマンドを定義します。
  - *Managed Hosts* オプションを使って管理対象ホストを定義します。これらのホストに対してコマンドが実行されます。
  - *Manage Configure Instances –Configure* オプションを使って、あなたの構成インスタンス管理対象ホストを追加します
  - *Manage Configure Instances - Configure - Managed Host - Configure* オプションを使って、各管理対象ホストのために実行されるタスク（コマンドとパラメータ）を追加します。すでに定義済みのコマンドとパラメータがある場合、そのタスクをタスク追加に使用できます。
4. *Manage User Filters* を使って、ユーザーフィルタ（ユーザが見られるイベント）を定義します。
5. *Manage Users* メニューオプションを使って、この構成インスタンスの許可ユーザを定義します：
  - ID のロールを定義
    - 管理サーバにイベントを送る仲介プログラム
    - イベントを見るコンシューマプログラムやユーザ（QuickViewのユーザを含む）
    - 管理サーバのWeb アプリケーションへのアクセス
  - ID へのユーザーフィルタのアサイン（もし有るならば）
  - 構成インスタンスへのユーザのアサイン
6. *Notifications* オプションを使っての、通知アクションの定義：
  - イベントマッチング基準と通知するユーザの定義

## サーバのプロパティ (Server Properties)

このセクションでは、管理サーバのプロパティの参照や編集について説明します。

**CONFIGURATION > Server Properties** メニューオプションを選ぶと、下図のようなカレントのTap In 管理サーバのプロパティが表示されます。

管理サーバに関連するフィールドには下記があります：

- **Name** (名前) – 構成インスタンスを定義するときのショート名
- **Assigned Host Name** (割当ホスト名) – これはあなたの管理サーバ設定を始めたときに提供された、割当て名です。このフィールドは Amazon の EC2 インスタンスが開始したときに、そのサーバに割り当てられたホスト名と一致します。詳しくは、*Tap In Systems Quick Start Guide* を参照ください。
- **Description** (説明) - これは管理サーバについて説明する自由形式のテキストです。

管理サーバの適用されるオプションとして下記があります：

- **Edit** (編集) - **Server Properties** 画面の **Edit** ボタンをクリックして、サーバのプロパティ (ホスト名と説明) を変更することができます。

図: Configuration – Server Properties

図: Configuration – Edit Server Properties

次に、Configurationインスタンスの管理について説明します。

## Configuration インスタンス (Configuration Instances) の管理

このセクションでは、定義済み Configuration インスタンスの一覧表示、インスタンスの構成設定、管理対象ホストの構成設定、タスクの編集などの構成インスタンスの管理について説明します。構成定義であるインスタンスには、承認されたユーザが含まれます。ユーザについては、ユーザの管理のセクションで説明します。

稼動およびアクティブ構成として、一台の稼動中の Tap In 管理サーバとひとつの configuration インスタンスが Tap In サーバ上に導入されます。しかし、複数インスタンスを事前定義することができます。たとえば、ウィンドウ変更中にあなたが管理するインフラストラクチャにシステムを追加した場合、新しいシステムのための監視定義を含む新しいインスタンスを事前定義できます。あなたの変更が導入された後、事前定義したインスタンスを Tap In 管理サーバに導入することが出来ます。

**CONFIGURATION > Management Configuration Instances** メニューオプションを選ぶと、下図のようにすべての定義済みインスタンスが一覧表示されます。

各インスタンスに対して以下のオプションを選択できます：**Configure**、**Edit**、と **Delete**。また、**NEW INSTANCE** オプションでインスタンスを追加することができます。

Configuration インスタンスに関連するフィールドは下記の通りです：

- **Name** (名前) – Configuration インスタンスのショート名です。
- **Description** (説明) – Configuration インスタンスについて説明する自由形式のテキストです。

Configuration インスタンスに適用されるオプションとして下記があります：

- **Configure** (構成設定) – このオプションで Configuration インスタンスの既存ホストの更新、構成設定や削除、および管理対象ホストのインスタンスへの追加ができます。このオプションについては、次のトピックで説明します。
- **Edit** (編集) – Configuration インスタンスのプロパティ **Name** と **Description** を変更するにはこのオプションを使います。
- **Delete** (削除) – このオプションは、対応するインスタンスを削除します。

図: Configuration – Manage Configuration Instances – Configuration Instances

Name	Description	Options
Test Environment	Test configuration	Configure   Edit   Delete
test4	test	Configure   Edit   Delete
test5	test	Configure   Edit   Delete

NEW INSTANCE

インスタンスの構成設定について、次ページに続きます。

## インスタンスの構成設定 (Configuring Instance)

上述のように *Configuration Instances* 画面から、対応する行の *Configure* オプションを選ぶことで、インスタンスを構成設定することができます。 *Configuration Instance* ページは下記の表示を行います。このページは *configuration* から既存ホストの更新、構成設定や削除および、*Configuration Instance* インスタンスへの監視対象ホストの追加のオプションを提供します。

### 1 Configuration Instance -

このページの最上部に選ばれた構成インスタンスと管理サーバの名前と説明が表示されます。

### 2 Hosts managed by this server -

このメインセクションでは、このサーバにアサインされた管理対象ホストを一覧にします。これらのホストは前

に *Configuration>Managed Hosts* メニューオプションを使って定義されたものです。

管理対象ホストを構成するフィールドには下記が含まれます:

- **Name** – ホストの名前。
- **IP Address** – ホストの IP アドレス。
- **Description** – ホストについて記述する自由形式のテキストフィールド。

管理対象ホスト構成に適用できるオプションとして下記があります:

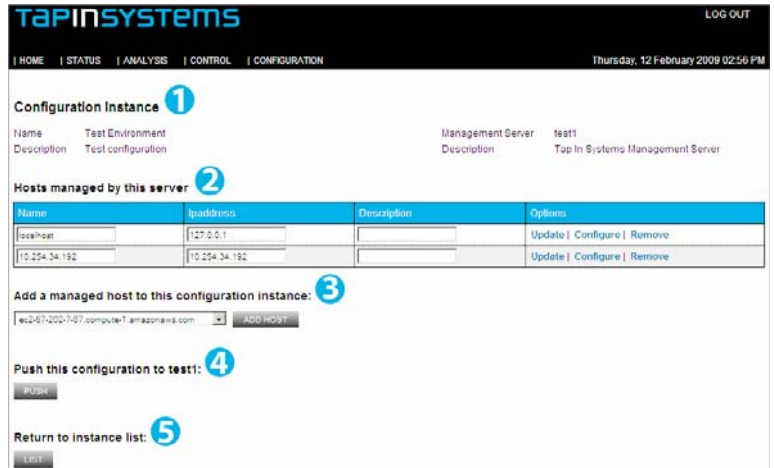
- **Update** – 構成を更新するために、*Name*、*IP Address* や *Description* フィールドを編集し、対応する行の *Update* を選ぶことで一覧のホストを変更することができます。
- **Configure** – このオプションは選んだホストの *Managed Host* ページを開きます。選んだホストについて *update*、*edit* や *remove tasks*、*add a new task* や *assign an existing task* を行うのにこのオプションを使用できます。*Configure* オプションについては、次のセクションで説明します。
- **Remove** – インスタンスからホストを削除するには、対応するホストの行の *Remove* を選びます。  
注意: ホストは削除されるのではなく、この構成インスタンスとの関係が無くなっただけです。

**3 Add a managed host to this configuration instance** – 現在のインスタンスに追加するため、定義済ホストをドリルダウンボックスから選ぶことができます。選択後、**ADD HOST** を選んでください。

**4 Push this configuration to [test1]:** この **PUSH** オプションは、編集や変更を行った構成を管理サーバにプッシュします。これは、*Control>Update Management Server Configuration* メニューオプション、構成インスタンスを選択したから *Push Configuration* を選んだのと同じです。

**5 Return to instance list** – この **LIST** オプションは、すべてのインスタンスが一覧になっている *Configuration Instances* ページに戻ります。

次に、サーバによって管理されるホストの一覧の構成を行う、上の図の *Configuration Instance - Configure* オプションを説明します。



## 管理対象サーバ (Managed Hosts) の構成設定

上記の *Configuration Instance* 画面から *Configure* オプションを選択することで管理対象ホストを構成設定することができます。下図の *Managed Host* ページが表示されるでしょう。このページは管理対象ホストに対して実行されるタスクやコマンドを定義します。タスクは、**Critical** や **Warning** アラート閾値などの実行パラメータをアサインしたコマンドです。オプションとして **update**、**edit** や **remove a task for a managed host**、**to add a new task** と **to assign an existing task to a host** があります。

### 1 Managed Host –

このページの最上部に選ばれた管理対象ホスト、構成インスタンスと管理サーバの名前と説明が表示されます。

### 2 Tasks for this Host –

このメインセクションでは管理対象ホストにアサインされたタスクを一覧にします。これらのタスクは前に

*Configuration > Manage Tasks* メニューオプションを使って定義されたものです。構成するフィールドには下記が含まれます:

- **Name** – ユニークなタスク名
- **Schedule** – タスクを実行する定期間隔。タスク実行の間の時間を分で指定します。
- **Description** – タスクを説明する自由形式のテキストフィールド。
- **Command** – コマンドの名前。実行プログラムやスクリプトを参照します。

タスクに適用されるオプションとしては下記があります:

- **Update** – **Name**、**Schedule**、**Description** や **Command** を編集し、構成を更新するために該当する行の **Update** ボタンを選ぶことで、既存タスクを変更できます。
- **Edit** – このオプションは選んだタスクのための **Task Edit** ページを開きます。このオプションを使って、デフォルトのコマンド設定を上書きすることができます。タスクの編集は、そのタスクを使用する他の全ての管理対象ホストの設定を変更することに注意してください。**Configure** オプションについて次のセクションで詳しく説明します。
- **Remove** – 管理対象ホストからタスクを削除するには、タスクに対応する行の **Remove** を選択します。注意: タスクは削除されず、この管理対象ホストとの関係がなくなるだけです。

**3 Add new task to host [localhost]** – ここで、フィールドに入力し、ドロップダウンリストからコマンドを選んでから **ADD TASK** を選んで、構成設定中のホストに新規タスクを追加できます。

**4 Assign an existing task to host [localhost]** – ここで、ドロップダウンリストから定期タスクを選択し、**ASSIGN TASK** をクリックすることで、構成設定中のホストにアサインすることができます。

**5 CONFIGURE INSTANCE** ボタンで、現在のサーバによって管理されている全ホストを一覧にする、*Configuration Instance* ページに行きます。 **LIST TASKS** ボタンで以前に定義されたタスクを表示する *Manage Tasks* ページに行きます。

次に、タスクの編集を行う、上の図の *Managed Host – Edit* オプションを説明します。

The screenshot shows the Tap In Systems web interface. At the top, there's a navigation bar with 'HOME', 'STATUS', 'ANALYSE', 'CONTROL', and 'CONFIGURATION'. The main content area is titled 'Managed Host' and shows details for a host named 'localhost' with IP address '127.0.0.1'. Below this, there's a table of tasks for this host. The table has columns for Name, Schedule, Description, Command, and Options. The tasks listed are: 'ping' (Schedule: 5, Command: 'TIS\_LINUX\_ping'), 'Database Logger Scripts' (Schedule: 1, Command: 'TIS\_LINUX\_Database\_Log'), 'Check web server' (Schedule: 5, Command: 'TIS\_LINUX\_check\_web'), 'RRD Logger Scripts' (Schedule: 5, Command: 'TIS\_LINUX\_RRD\_Log'), and 'Grep Count Scripts' (Schedule: 5, Command: 'TIS\_LINUX\_grep\_Counts'). Each row has 'Update | Edit | Remove' options. Below the table, there are two sections: 'Add new task to host localhost' with input fields for Name, Schedule, Description, and Command, and 'Assign an existing task to host localhost' with a dropdown menu for selecting a task and an 'ASSIGN TASK' button.

## タスクの編集 (Editing a Task)

上述の *Managed Host* 画面から対応するタスクの *Edit* オプションを選ぶことで、タスクを編集することができます (*Configuration>Manage Tasks* メニューオプションを選んでもタスク編集ができます。) 下図のような *Edit Task* ページが表示されるでしょう。このページで、監視対象ホストに対して実行するタスクの実行パラメータを定義できます。

タスクは、管理サーバによって実行される実行形式プログラムを意味します。コマンドライン引数がある、このプログラム実行に適用できるかもしれません。指定されるタスクは、実行形式プログラムとそのコマンド引数の組み合わせです。

**1 Edit Task** – このページの最上部にタスクのプロパティが表示されます。これらのプロパティは編集可能です。編集を行った後 *Update* をクリックしてください。

**2 Default Command Arguments** – 次のセクションはタスクに関連する一連のパラメータを一覧にします。

新しいタスクが作成されたら、使用可能なコマンド引数がデフォルトの値でコマンドと共に定義されます。

**3 Task Command Argument Overrides** – このセクションは上述のセクションでコマンドの *Override* オプションが選択された場合に表示されます。ここで、デフォルトのコマンドパラメータを上書きすることができます。

値のフィールドの中に、このタスクに割り当てられた管理対象ホストの IP アドレスで置換する、パラメータ *%targethost%* が使用できます。この機能で、タスクを多くの管理対象ホストに適用できるようになります。あなたの変更を更新するには *Update*、コマンド引数を削除するには *Delete* を選択してください。

**4 Command Line** – あなたが選択したパラメータに基づいて生成されるコマンドがこのセクションに表示されます。コマンドは、管理サーバのシェルセッションのコマンドラインでコマンドを投入することでテストすることができます。

**5 Assigned to Configuration Instances** – このエリアに、このタスクに割り当てられたすべての構成インスタンスを一覧にします。タスクへの変更が関連付けられたすべての構成に影響を及ぼすので、これらの表示は変更による影響を示唆します。

**6 Assigned to Managed Hosts** – このエリアは、このタスクにアサインされたすべての管理対象ホストを一覧にします。タスクへの変更が関連付けられたすべての構成に影響を及ぼすので、これらの表示は変更による影響を示唆します。

The screenshot shows the 'Edit Task' page in the Tap In Systems web interface. The page has a dark header with 'TAPINSYSTEMS' and 'LOG OUT' on the right. Below the header is a navigation bar with 'HOME', 'STATUS', 'ANALYSIS', 'CONTROL', and 'CONFIGURATION'. The main content area is titled 'Edit Task' and contains several sections:

- Edit Task:** A form with fields for Name (ping), Schedule (5), Command (TIS\_LINUX\_ping\_oms), and Description (ping). There is an 'UPDATE' button below.
- Default Command Arguments:** A table with 5 columns: Position, Name, Keyword, Default value, and Options. It lists arguments like 'warning rta.prtloss' and 'critical rta.prtloss'.
- Task Command Argument Overrides:** A table with 6 columns: Position, Name, Keyword, Override value, Description, and Options. It shows an override for 'warning rta.prtloss'.
- Command Line:** A text input field containing the command: `./usr/local/tapin/scripts/checked_ping -w 200.80% -c 800.100% -H %targethost%`.
- Assigned to Configuration Instances:** A text input field with 'Test Environment'.
- Assigned to Managed Hosts:** A text input field with 'localhost'.

## 管理対象ホスト (Managed Hosts)

あなたの管理環境にあるホストは、このセクションで定義されます。 **Configuration>Managed Hosts** メニューオプションを選びとすべての定義済みの管理対象ホストが一覧にされるでしょう。

各ホストについてオプション; **Edit** と **Delete** を選択できます。 また、**NEW HOST** オプションでホストを追加できます。

管理対象ホストに関連するフィールドには下記があります:

- **Name** – 構成インスタンス定義時のリファレンスとして使用。ユニークである必要があります。
- **IP Address** – これは、このホストのホスト名か **IP Address** です。このフィールドは、インスタンスタスクや **%targethost%** を使ったコマンドを定義する時に参照されます。
- **Description** – これは自由形式のテキストフィールドでこのホストの説明に使用します。

ホストに適用するオプションには下記があります:

- **Edit** – このオプションは、このホストのための **Edit Managed Host** ページを開きます。ここでは、ホストプロパティ: **Name**、**IP Address** と **Description** を編集することができます。
- **Delete** – ホストを管理サーバから削除するために、ホストの該当行の **Delete** を選びます。

変更もしくは新規の管理対象ホスト作成後、前述、インスタンスの構成設定のセクションで説明したように、それを構成インスタンスにアサインすることができます。

図: Configuration – Managed Hosts

Name	Ipaddress	Description	Options
10.254.34.192	10.254.34.192		Edit   Delete
ec2-67-202-7-87.compute-1.amazonaws.com	ec2-67-202-7-87.compute-1.amazonaws.com	i-a748e0ce ami-1dcc2874 ip-10-251-70-47.ec2.internal	Edit   Delete
ec2-72-44-37-178.compute-1.amazonaws.com	ec2-72-44-37-178.compute-1.amazonaws.com	i-a18a51c8 ami-7f9b7f16 domU-12-31-39-00-A4-B5.compute-1.internal	Edit   Delete
ec2-72-44-39-201.compute-1.amazonaws.com	ec2-72-44-39-201.compute-1.amazonaws.com	i-040c8c6d ami-c0ae49a9 domU-12-31-39-00-B6-23.compute-1.internal	Edit   Delete
ec2-75-101-199-244.compute-1.amazonaws.com	ec2-75-101-199-244.compute-1.amazonaws.com	i-10e84979 ami-1dcc2874 domU-12-31-39-00-A5-18.compute-1.internal	Edit   Delete
ec2-75-101-225-25.compute-1.amazonaws.com	ec2-75-101-225-25.compute-1.amazonaws.com	i-6824f201 ami-45bc582c ip-10-251-202-207.ec2.internal	Edit   Delete
ec2-75-101-254-240.compute-1.amazonaws.com	ec2-75-101-254-240.compute-1.amazonaws.com	i-f4da749d ami-d0b357b9 domU-12-31-39-00-A1-47.compute-1.internal	Edit   Delete
localhost	127.0.0.1	test	Edit   Delete

NEW HOST

## タスク管理 (Manage Tasks)

管理対象環境の中で使用されるタスクはこのセクションで定義します。タスクとは管理サーバによって実行される実行プログラムのことです。そのプログラムには実行時に適用される、設定可能なコマンドライン引数がある可能性があります。指定されるタスクは実行プログラムとそのコマンド引数です。

**Selecting the *Configuration>Manage Tasks*** メニューオプションを選択すると、下図のようにすべての定義済みタスクが一覧に表示されます。

各タスクについて、**Show**、**Edit** と **Delete** のオプションを選択できます。また、**NEW TASK** オプションでタスクの追加ができます。

管理タスクに関連付けられたフィールドには下記が含まれます:

- **Name** - 構成インスタンス定義時のリファレンスとして使用。ユニークである必要があります。
- **Schedule** - タスク実行スケジュール頻度を示します。この数字は分単位でのプログラム実行時間間隔を示します。たとえば、5はプログラムが5分毎に実行されることを示します。
- **Description** - これは自由形式のテキストフィールドでタスクの説明に使用します。
- **Command** - このタスクに関連付けられたコマンド名のリファレンスです。これらのコマンドは、次のコマンドの**管理**セクションで定義します。
- **Configuration Instances** - このタスクが割り当てられた構成インスタンスです。
- **Management Server** - このタスクが割り当てられた管理サーバです。
- **Managed Hosts** - このタスクが割り当てられた管理対象ホストです。

タスクに適用するオプションには下記があります:

- **Show** - このオプションは選んだタスクの詳細を表示します。
- **Edit** - このオプションは、このタスクの **Edit Task** ページを開き、そこでタスクのプロパティ: **Name**、**Schedule**、**Command** と **Description** を変更し、コマンド引数を上書きできます。
- **Delete** - タスクを削除するには、そのタスクの該当行の **Delete** を選びます。これで、選択したタスクをシステムから削除します。特定の管理対象ホストにタスクを追加したり削除したりするには **構成インスタンス – 管理対象ホストの構成設定** のセクションを参照ください。

図: Configuration – Manage Tasks

Name	Schedule	Description	Command	Configuration Instance	Management Server	Managed Hosts	Options
DatabaseLogger	5	Tap In Logger	TIS_LINUX_Database_Log				Show   Edit   Delete
dblogger	1	Database Logger Script	TIS_LINUX_Database_Log	Test Environment	test1	localhost	Show   Edit   Delete
External_ping	5	Ping	TIS_LINUX_check_ping				Show   Edit   Delete
groupcounts	5	Group Count Script	TIS_LINUX_Group_Counts	Test Environment	test1	localhost	Show   Edit   Delete
groupcounts	5	Group Count Script	TIS_LINUX_Group_Counts				Show   Edit   Delete
http	5	Check web server	TIS_LINUX_check_http	Test Environment	test1	localhost	Show   Edit   Delete
HTTP_uri	5	HTTP	TIS_LINUX_check_http_uri				Show   Edit   Delete
icmp	5	Ping	TIS_LINUX_check_icmp	Test Environment	test1	localhost	Show   Edit   Delete
icmp	5	Ping	TIS_LINUX_check_icmp	Test Environment	test1	10.254.34.192	Show   Edit   Delete
Ping2	5	Ping	TIS_LINUX_check_ping				Show   Edit   Delete
rrdlogger	2	RRD Logger Script	TIS_LINUX_RRD_Log	Test Environment	test1	localhost	Show   Edit   Delete
ssh	5	SSH	TIS_LINUX_check_ssh	Test Environment	test1	10.254.34.192	Show   Edit   Delete
test	5	Logger	TIS_LINUX_Database_Log	test4	test1	localhost	Show   Edit   Delete
testtest	test	Notification_Engine	test				Show   Edit   Delete
www_http	5	HTTP	TIS_LINUX_check_http				Show   Edit   Delete

NEW TASK

## コマンドの管理 (Manage Commands)

管理サーバによって発行されるコマンドについて、このセクションで一覧にし、定義します。

**Configuration>Manage Commands** メニューオプションは、下図のようにすべての定義済みコマンドを一覧表示します。

各コマンドにオプション; **Show**, **Edit** と **Delete** を選択することができます。また、**NEW COMMAND** オプションでコマンドの追加ができます。

管理コマンドに関連付けられたフィールドには下記が含まれます:

- Name** – タスク定義時のリファレンスとして使用します。ユニークである必要があります。
- Directory** – コマンドのディレクトリ。これもコマンドフィールド内で明確に定義が必要でしょう。使用しない場合、“.” を入力します。
- Command String** – これはシェル上のコマンドラインとして実行するコマンドです。ディレクトリも含めることができます。
- Description** - これは自由形式のテキストフィールドでコマンドの説明に使用します。
- Timeout** – この数値は、終了させられる前に、コマンドタスクが完了するまでの最大秒数を指定します。 -1 を入力するとこのコマンドに関連するタスクは完了しないと見なされます。完了しない場合、管理サーバは自動的にタスクを再起動します。これは常に監視タスクを実行し続けるデーモンのようなスクリプトのために使われます。もしそれらが想定外の条件で終了した場合、アラートが生成されます。このタイプのタスクの例は、常に管理サーバのイベントを読んで、データベースのロギングするロガータスクです。

コマンドラインに適用するオプションには下記があります:

- Show** – このオプションは選択したコマンドの詳細を表示します。
- Edit** – このオプションは選択したコマンドのための **Edit Command** ページを開きます。そこではコマンドプロパティ; **Name**, **Directory**, **Command**, **Description** と **Timeout** を変更することができます。このオプションは、次のセクションで詳しく説明します。
- Delete** – コマンドを削除するには、そのコマンドの該当行の **Delete** を選びます。これによりシステムからコマンドが削除されます。

コマンドの編集について、次のページに続きます。

Name	Command String	Description	Options
Notification_Engine	/usr/bin/ruby /usr/local/tapin/scripts/notify_base.rb	Notification Engine. Use Configuration->Manage Actions->Notification to define notification criteria	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_disk	/usr/local/tapin/scripts/check_disk -w 70 -c 90	Nagios plugin to check disk space	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_http	/usr/local/tapin/scripts/check_http -w 5 -c 20 -H %targethost%	Nagios plugin to ping	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_http_url	/usr/local/tapin/scripts/check_http -w 5 -c 20 -H %targethost% -u /index.html	Nagios plugin to perform http check	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_load	/usr/local/tapin/scripts/check_load -w 200.00% -c 800.100% -H %targethost%	Nagios plugin to lomp ping	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_load	/usr/local/tapin/scripts/check_load -w 4.4 -c 8.8	Nagios plugin to check load	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_ping	/usr/local/tapin/scripts/check_ping -w 500.30% -c 2000.100% -H %targethost%	Nagios plugin to ping	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_ssh	/usr/local/tapin/scripts/check_ssh -t 2 -H %targethost%	Nagios plugin to check ssh port	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_swap	/usr/local/tapin/scripts/check_swap -w 30 -c 20	Nagios plugin to check swap	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_check_tapin_config	/usr/bin/perl /usr/local/tapin/scripts/check_tapin_config.pl -h tapinconfig.dindns.org	Plugin to request sending Spider configuration to this host.	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_Database_Log	/usr/bin/perl /usr/local/tapin/scripts/getalarms5f.pl -u dblogger -p 12345	Log alert data to MySQL database.	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_GoGrid_Servers	/usr/bin/perl /usr/local/tapin/scripts/test_gogrid_api.pl	List GoGrid Servers using GoGrid API	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_Group_Counts	/usr/bin/perl /usr/local/tapin/scripts/groupids.pl	Count hosts in each group for RRDs.	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_Ping	/usr/bin/perl /usr/local/tapin/scripts/linux_ping.pl %targethost%	Ping using Perl	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_RRD_Log	/usr/bin/perl /usr/local/tapin/scripts/processupdates5f.pl	Log alert data to MySQL database.	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_TCP_port	/usr/local/tapin/scripts/check_tcp -H %targethost% -p 80	Nagios plugin to check TCP ports	Show   Edit   Delete
TIS_LINUX_Time_test	/usr/bin/perl /usr/local/tapin/scripts/timetest.pl	Test time output with random severity output.	Show   Edit   Delete

## コマンドの編集 (Editing Commands)

上述の *Manage Commands* 画面からコマンドに対応する *Edit* オプションを選択することでコマンドを編集することができます。下図のような *Edit Command* ページが表示されるでしょう。このページで、コマンドのプロパティ定義、既存のコマンド引数の更新や削除および、引数の新規追加が行えます。下記のイメージや文は、*Manage Commands* 画面のそれぞれの部分について説明します。

### 1 Edit Command – ページ最

上部にコマンドのプロパティが表示されます。これらのプロパティは編集できます。編集後、*Update* をクリックしてください。

### 2 Command Arguments –

次のセクションはコマンド実行パラメータの一覧です。これらのパラメータはコマンド実行時に、コマンドライン引数として追加されます。

### 3 Add a New Argument – 下記について各構成引数に対して定義する必要があります：

- **Position** – コマンドによってはパラメータの前後関係に依存することがあり、明確な順序の定義が必要です。たとえば、最初の値が警告、二番目の値が障害の閾値など。このフィールドコマンド内でのパラメータの順序を表す数字である必要が有ります。
- **Name** – 通常、引数の説明に使用します。コマンドラインには使用されません。
- **Keyword** – パラメータ定義のためのキーワード。mmon keyword format used in Linux コマンドで使用する共通キーワード形式は **-<文字>** です; たとえば、**-w** は警告 (warning) の閾値で、**-c** は障害 (critical) の閾値を現します。コマンドではこのキーワードの後に値が続きます。
- **Default Value** – 定義した場合、タスクが作成される際に、このコマンドのために使用するデフォルト値となります。 **%targethost%** が値として使用されると、このコマンドを使用するタスクにアサインされた管理対象ホストが、コマンド内で使用されます。

**4 Command Line** – このセクションにあなたが選択したパラメータに基づいた結果のコマンドが表示されます。そのコマンドは、管理サーバのシェルセッションでコマンドラインとしてテストできます。

**5 Clone this Command and Arguments** – 既存のコマンドと類似した新しいコマンドを作成したい場合、既存のコマンドを編集し、*Clone* を選びます。そのコマンドと引数のコピーが画面上に表示されず。フィールドを更新と編集し、必要ならコマンド引数を更新し、新しいコマンドを保存するために、*Update* を選択します。

The screenshot shows the 'Edit Command' page in the Tap In Systems interface. The page title is 'Edit Command'. The form contains the following fields:

- Name: Notification\_Engine
- Directory: /usr/bin/ruby
- Command: /usr/bin/ruby
- Description: (empty)
- Timeout: 1

Below the form is a table for 'Command Arguments':

Position	Name	Keyword	Default value	Options
1	Script	/usr/local/tapin/scripts		Update   Delete

There is also a section for 'Add new argument' with fields for Position, Name, Keyword, and Default value. Below that is the 'Command Line' field containing the path: /usr/bin/ruby /usr/local/tapin/scripts/notify\_base.rb. At the bottom, there is a 'Clone this command and arguments' button and a 'Return to command list' link.

## 通知 (Notifications)

**Configuration>Notifications** メニューオプションでは、管理サーバが特定アラートを受け取った際に生成されるメール通知を定義することができます。下図の **Notifications** ページは通知イベントの一致リストを表示しています。システムのイベントがひとつのアイテムのフィールドと一致した場合、**Notify Users** フィールド内で示されるユーザに通知が送られことになります。

各アクション一致 (action match) 毎にオプション **Edit** と **Delete** を選択することができます。また、**NEW ACTION MATCH** オプションでアクションを追加できます。

The event fields associated with an action match include:

- **EMS – Element Management System – Tap In** 管理サーバのユニークな識別子。
- **Class** – 管理対象機器のタイプを示します。
- **Rule** – エラーイベントのタイプを示します。
- **Group** – さまざまな管理対象デバイスからの共通なグループアクセスを示します。
- **Severity** – イベントの重大度(1-5)。
- **タイプ/名前 T1~T3 と N1~N3** – これらの名前と値の組み合わせは、このイベントを発生させて詳しいコンポーネントを特定します。これらは各クラスでユニークでしょう。
- **Count** – このイベントが発生した回数。クラス、EMS、ルールと、タイプ/名前の組み合わせペアでユニークです。
- **Attribute** – 一致条件。アスタリスク "\*" は、どのような値でも一致するワイルドカードを意味します。
- **Value** – 一致条件。アスタリスク "\*" は、どのような値でも一致するワイルドカードを意味します。
- **Notify Users** – システムに定義したユーザを表示します。**CTRL**を押して選ぶことで複数選択が可能です。

アクションに適用する下記のオプションがあります：

- **Edit** – このオプションでは選択したアクションに対して、そのアクションプロパティを変更する **Edit Action Match** ページを開きます。次セクションでこのオプションについて詳しく説明します。
- **Delete** – アクションを削除するには、そのアクション対応した行の **Delete** を選んでください。システムから選択されたアクションが削除されます。

図: Configuration – Notifications

The screenshot shows the 'Notifications' page in the Tap In Systems web interface. The page title is 'Notifications' and it displays an 'Action Match List' table. The table has columns for EMS, Class, Rule, Group, Severity, T1, N1, T2, N2, T3, N3, Count, Attribute, Value, Notify Users, and Options. Two rows are visible: one for 'ploh-pc1' with severity 1 and notify user 'admin', and one for 'nagios' with severity 0 and notify user 'peter'. Below the table is a 'NEW ACTION MATCH' button.

EMS	Class	Rule	Group	Severity	T1	N1	T2	N2	T3	N3	Count	Attribute	Value	Notify Users	Options
ploh-pc1	Spider	PingReply	*	1	Hostname	*	*	*	*	*	0	*	*	admin	Edit   Delete
nagios	self	default	*	0	schedule	ploh-pc1__Time_test	host	ploh-pc1	script	Time_test	0	*	*	peter	Edit   Delete

NEW ACTION MATCH

通知アクションの編集について、次ページに続きます。

## 通知アクション一致アイテムの編集 (Edit Action Match)

上述の *Notifications* 画面から、アクションに対応する *Edit* オプションを選択することで、アクション一致アイテムを編集することができます。下図のような *Edit Action Match* ページが表示されます。このページではアクションアイテムのプロパティを定義することができます。

図: Configuration – Notifications – Edit

The screenshot shows the 'Edit Action Match' configuration page. At the top, there is a navigation bar with 'HOME', 'STATUS', 'ANALYSIS', 'CONTROL', and 'CONFIGURATION'. The current page is 'CONFIGURATION'. The date and time are 'Wednesday, 11 February 2009 03:51 PM'. The page title is 'Edit Action Match'. Below the title, there is a list of definitions for the configuration fields:

- Element Management System:** The unique identifier of the Tap In Management Server.
- Class:** Indicates the type of managed device.
- Rule:** Indicates the type of error or event.
- Group:** Indicates common group across events from different classes of managed devices.
- Severity:** The severity (1 to 5) of this event.
- Type-Name pairs:** These sets of name-value pairs specify the detailed component that is the cause of this event. These may be unique for each class.
- Count:** The number of multiple occurrences of this event. Unique for class, ems, rule, and type-name pairs combinations.

The form fields are as follows:

- Element Management System: nagios
- Class: self
- Rule: default
- Group: \*
- Severity: 0
- Type 1: schedule
- Name 1: ploh-pc1\_\_Time\_test
- Type 2: host
- Name 2: ploh-pc1
- Type 3: script
- Name 3: Time\_test
- Count: 0
- Attribute: \*
- Value: \*
- Notify Users: .None- (dropdown menu with options: peter, admin, dblogger, test-m)

At the bottom of the form, there are 'UPDATE' and 'CANCEL' buttons.

実行する通知プロセスのために、あなたのアクティブな管理構成インスタンスの通知コマンドをタスクとして定義する必要があります。

このコマンドは *Notification Engine* と呼ばれ、デフォルトのサーバ構成設定の中に含まれています。そのコマンドは、5分（あるいは指定された時間間隔）毎にオープンイベントのデータベースを検索し、一致リストの中に判断基準と一致するオープン中イベントがあるかをチェックします。あるイベントが一致した場合、通知メールが送出されます。通知の例を下記に示します：

```

from notifications@tapinsystems.com
to username@yourcompany.com
date Tue, Dec 16, 2008 at 12:52 AM
subject username Sev 2 for
Server:ip-xx-xxx-xxxxxx.ec2.internal:ScheduledCheck:schedule:app1.yourcompany.com__HTTP_w
ebpage:host:app1.yourcompany.com:script:HTTP_webpage
hide details Dec 16 (11 days ago)
reply
HTTP WARNING: - HTTP/1.1 200 OK - 6.326 second response time
|time=6.325616s;5.000000;20.000000;0.000000 size=2370757B;;;0

```

通知のフォーマットと操作は、あなた自身の通知コマンドを作成することでカスタマイズできます。

デフォルトの通知コマンドは右の Ruby スクリプトです： `/usr/local/tapin/scripts/notify_base.rb`

## ユーザ管理 (Manage Users)

このセクションで Tap In 管理サーバのユーザを定義することができます。ユーザ定義は下記の目的のため利用されます：

- Tap In 管理サーバのイベントバスコンポーネントのためのログインを認める
  - メディエータ (Mediator)：管理サーバ内でイベント生成するのに使用するログイン ID。これらは、通常プログラムで使用されます。
  - カスタマ (Consumer)：管理サーバ上のイベントを参照するコンポーネントによって使用される、ログイン ID。これらは、最も普通のカスタマ ID は、QuickView コンソールへのアクセスに使用されます。しかし、Tap In の logger プログラムなど、管理サーバのイベントをログするプログラムも使用される可能性があります。
- Web レポートやサーバ構成などの Web アプリケーションのコンポーネントのためのログインを認める。

**Configuration>Manage Users** メニューオプションを選択すると、下図のように、定義済みの全ユーザが一覧表示されます。

各定義済みユーザについて、オプション、**Edit** と **Delete** が使用できます。また、**NEW USER** オプションでユーザを追加できます。新規のユーザの作成は次項で詳しく説明します。

ユーザに関連付けられるフィールドには下記があります：

- **Username** – [必須] これはログインの際に入力するログインIDです。
- **First** – [任意] ユーザの名を識別するために確保された自由形式のテキストフィールド。
- **Last** – [任意] ユーザの姓を識別するために確保された自由形式のテキストフィールド。
- **Email** – [必須] ユーザのEメールアドレス。通知アクションの中にそのユーザ名が含まれていた場合に、そこに対してEメールが送出されます。

ユーザ定義に適用できるオプションには下記があります：

- **Edit** – このオプションは、既存のユーザ定義を編集するため **Edit User** ページを開きます。
- **Delete** – ユーザを削除するには、対応するユーザの行の **Delete** を選んでください。これにより、ユーザがシステムから削除されます。

図: Configuration – Manage Users

Username	First	Last	Email	Options
admin	Admin	Admin	admin@tapinsystems.com	Edit   Delete
dblogger	ScriptID			Edit   Delete
peter	Peter	Loh	info@tapinsystems.com	Edit   Delete
test-m				Edit   Delete

NEW USER

新規ユーザの作成について、次ページに続きます。

## 新規ユーザの作成 (New User)

上述の *Manage Users* 画面から *NEW USER* を選択することで、新しいユーザ定義を追加できます。

下図のような *Edit User* ページが表示されるでしょう。

ユーザ定義に関連するフィールドには下記があります：

- **Username** – [必須] ログイン時に入力するログインID。
- **Password** – [必須] ユーザのパスワード。
- **Confirm Password** – [必須] 上記のユーザパスワードの確認入力。
- **First** – [任意] ユーザの名を識別するために確保された自由形式のテキストフィールド。
- **Last** – [任意] ユーザの姓を識別するために確保された自由形式のテキストフィールド。
- **Email** – [必須] ユーザのEメールアドレス。通知アクションの中にそのユーザ名が含まれていた場合に、そこに対してEメールが送出されます。
- **User Filter** – [主として **Consumer** ユーザへの応用] ユーザが参照を認められたイベントを定義。  
*None* と *no\_self\_alerts* のオプションが利用できます。次項のユーザーフィルタの管理セクションを参照してください。

ユーザ定義に適用できるオプションには下記があります：

- **Management Server Role** – このオプションは管理サーバのロールでユーザを定義します。  
以下のどれかを使用できます：*None*、*Consumer*、*Mediator* と *SuperUser* 。
- **Apply Management Server Role to Configuration Instances** – このオプションは上記で指定された管理サーバロールに、どの構成インスタンスを適用するかを定義します。

このフォーム内のフィールド入力終了後、*CREATE* を選択します。次に、行った変更を有効にするためその構成を稼動中の管理サーバにプッシュします。構成の全体をプッシュするのではなく、変更分のみをプッシュするべきです。前述の、管理サーバ構成の更新セクションを参照してください。

図: Configuration – Notifications - Edit

## ユーザーフィルタの管理 (Manage User Filters)

このセクションで、前述のユーザ管理セクションで定義したユーザ定義に適用できる、ユーザーフィルタを定義することができます。

**Configuration>Manage User Filters** メニューオプションを選択することで、下図で示すように、定義されたユーザーフィルタが一覧表示されます。

選択した各ユーザーフィルタについて、オプション **Edit** と **Delete** が選択できます。また、**NEW USER FILTER** オプションでフィルタを追加できます。

フィルタに関連するフィールドには下記があります：

- **Name** – これはフィルタを参照するのに使用する名前であり、必ずユニークです。
- **Filter** – これは、イベントがユーザに送出される前に適用されるべきフィルタを定義する SQL の条件ステートメントです。たとえば、前述の画面では重要度 (severity) 1 のイベントのみのフィルタ定義が示されています。

フィルタ定義に適用できるオプションとして下記があります：

- **Edit** – このオプションは既存のユーザーフィルタ定義を編集するための **Edit User Filter** ページを開きます。
- **Delete** - ユーザーフィルタを削除するには、対応するユーザーフィルタ行の **Delete** を選んでください。これにより、選択されたユーザーフィルタがシステムから削除されます。

あなたの SQL 定義を作成してテストするひとつの方法は、SQL 定義を定義するのに **QuickView** の **SQL Filter** 機能ダイアログボックスを使うことです。フィルタされたイベントが、あなたの **QuickView** のイベント画面に表示されるでしょう。そのフィルタ定義の中のフィルタ (Filter) フィールド内の定義をコピーすることができます。

図: Configuration – Manage User Filters

Name	Filter	Options
testfilter1	severity=1	Edit   Delete
None	null	Edit   Delete
no_self_alerts	class!=self	Edit   Delete

NEW USER FILTER

## 用語集

## Tap In 用語

この表は、Tap In アプリケーションに関連する用語を定義します。

Alarm (アラーム)	Tap In 管理サーバシステムが表出して QuickView や Tap In Web ビューアで表示される、実世界の状況を表す抽象的な断面情報。アラームは、severity、priority、text message と ID 番号などの識別アトリビュートを持ちます。アラームは、用語「イベント」と相互に置き換えて使用できます。
Attributes: (アトリビュート)	アトリビュートは、各 Tap In 管理サーバのイベントを含む、抽象エレメントです。アトリビュートには下記が含まれます：
EMS	Element Management System. (エレメント管理システム) のホスト名。このフィールドは、アラームのソースを示し、Tap In 管理サーバのよってそのホスト名が入られます。 (例、ip-10-251-210-132.ec2.internal).
CLASS	Tap In 管理サーバによって割り当てられたユーザ定義可能なクラス指定で、一般的には管理対象機器のカテゴリ (例、All、QVC、Spide、TIS_EC2_Linux_Agent) をセットします。たとえば、Linux エージェントから来た全イベントに対し Linux_Agent クラスが指定されるでしょう。
GROUP	Tap In 管理サーバによって割り当てられたユーザ定義可能なグループで、一般的には異なるクラス間にまたがった共通フィールドが定義されます。たとえば、特定のアプリケーションに影響を与える異なる管理対象デバイスからのイベントは、同じグループ設定を持つでしょう。
RULE	そのタイプのアラームを指定されたイベントを発生させたルール名 (例、ScheduledCheck)。たとえば、Linux Agent クラスの空メモリ量を示すイベントは free_memory というルールを持ちます。
HRL	Hierarchical Resource List (階層リソースリスト) : T1 から T3 と N1 から N3 の一連の名前と値のペア。これらのフィールドはアラームの発生源を表します。各レベルはタイプのフィールドと値のフィールドを持ちます。各イベントに対し、できるだけ具体的に HRL は影響を及ぼしたコンポーネントを表します。たとえば、特定のカードとポートに使用するネットワークコンポーネントからイベントを受けた場合、その HRL は下記のようなになるでしょう： T1 – Host N1 – 192.168.1.200 T2 – Card N2 – A T1 – Port N1 – 101
COUNT	同じクラス、ルールと HRL のイベントの繰り返し回数。繰り返しアラームが発生した場合、メディエータ (mediator) がこのカウントを増やすか、新しいアラームを作成するかを決定します。
SEVERITY	1 (最高) から 5 (最低) までの重大度のランク付け。アラームの色が重要度 (severity) を示します。デフォルト色は 赤 (severity 1)、オレンジ (severity 2)、黄色 (severity 3)、LT グリーン (severity 4) と 緑 (severity 5) です。レポートフィルタのオプションにもイベント重大度 (All、1-5、と <3、<4、<5) があります。
PRIORITY	1 から 99 (最低) までのイベントの優先度ランク付け
FIRST TIME	Tap In 管理サーバによってイベントを受け取られた最初の時間 (例、Fri Jan 16 14:25:13 2009)。
LAST TIME	Tap In 管理サーバによってイベントを受け取られた最後の時間 (例、Fri Jan 16 16:50:14 2009)。
EVENT ID	イベントのユニークな識別子 (例、...5, 4, 3, 2, 1)。
ASTO	アサイン先の ID – イベントにアサインされたコンシューマ (consumer) 名 (例、peter)。
RTTO	振り先の ID -- イベントの振り先とされたコンシューマ (consumer) 名 (例、peter)。
STATUS	イベントのステータス。管理サーバがどのようにそのイベントを処理するかを示すのに使用される単一文字指標の組み合わせでも可。
MESSAGE (TEXT)	イベントに付随するテキストメッセージ (例、CRITICAL – 10.254.34.192: rta nan, lost 100% rta=0.000ms; 200.000;600.000;0; pl=100%;80;100;;)。
GA	レポートプログラムがグラフ化するアイテムとして翻訳するグラフのアトリビュート (例 rta;pl)。
GV	レポートプログラムが GA と結び付けてグラフ化する値や数値として、翻訳するグラフの値 (例。0.000;100)。
Configuration Management Instance (構成管理インスタンス)	Tap In 管理サーバ上にプッシュしたり導入したりが可能な、使用権のあるユーザやアクティブチェックを含む、構成定義。同時にひとつのみのインスタンスが稼動中でアクティブとして導入できますが、複数のインスタンスをあらかじめ定義できます。た

	たとえば、変更実施期間中に、あなたの管理インフラストラクチャにシステムを追加したい場合、新しいシステムのための監視定義を含む新しいインスタンスをあらかじめ定義できます。あなたの変更を導入後、Tap In 管理サーバ上にあらかじめ定義されたインスタンスを導入することができます。
Consumer (コンシューマ)	特別目的の管理機能のために Tap In 管理サーバのイベントを使用するプログラム。Tap In の QuickView コンソールはコンシューマプログラムです。
Event (イベント)	Tap In 管理サーバシステムが表出して QuickView や Tap In Web ビューアで表示される、実世界の状況を表す抽象的な断面情報。アラームは、severity、priority、text message と ID 番号などの識別アトリビュートを持ちます。イベントは、用語「アラーム」と相互に置き換えて使用できます。
Event Bus (イベントバス)	メディアータからイベントを受け取り、コンシューマにイベントを送るのに責任を持つ、Tap In 管理サーバシステムのコンポーネント。これは、独立した Java アプリケーションです。
Event Display (イベント画面)	Tap In 管理サーバシステムのイベントを詳しい一行目毎の形式で表示する QuickView アプリケーションのメインウィンドウです。
Filter (フィルタ)	ユーザにイベント表示をする前に選別するため使用する Structured Query Language (SQL) の仕様書あるいは、ステートメント。SQL ステートメントは、QuickView のユーザによって定義と保存され、その後カレントのイベント画面に適用されます。
Mediator (メディアータ)	機器やシステムのステータスを監視し、Tap In 管理サーバシステムにイベントを送信するプログラム。
Open and Closed Events (オープン中および、クローズ済イベント)	Open (オープン中) 状態のイベントは管理対象内での現在の問題を示し、運用担当者にとって興味があるものです。QuickView はオープン中のイベントのみを表示します。オペレータは QuickView を使って、イベントを選んで close アクションを選択することで、オープン中イベントをクローズできます。Closed (クローズ済) イベントは、Tap In 管理サーバシステムのデータベースに保存されます。
Perl	システムを検査したり、情報を取り出したりするため、管理ツールによって使用するために最適化された、インタプリタ・プログラム言語。ほとんどの Tap In メディアータは Perl スクリプトを使って作成されています。
QuickView	Tap In 管理サーバシステムのデータを人が判読できるカラーコード化した監視イベントに変換する Tap In のデスクトップソフトウェアのアプリケーション。
Ruby	Webアプリケーション開発ために一般的に使用されるインタプリタプログラム言語。Tap In System の Web レポートは Ruby と Ruby-on-Rails で作成されています。
Ruby-on-Rails	Ruby プログラム言語を土台にした Web アプリケーションフレームワーク。Ruby-on-Rails はインターネットの Web アプリケーション開発に広く利用され、速い開発機能を提供します。Tap In System の Web アプリケーションは Ruby と Ruby-on-Rails を使って開発されています。
Severity and Attribute Sparklines (重大度とアトリビュートのスパークライン)	Sparkline (スパークライン) の用語は、Edward Tufte のよって、小さく、コンテキストの用語、数字、イメージを組み込んだ高解像度のグラフのために提案されました。Tufte は、スパークラインを、データに強く、シンプルなデザインの文字サイズのグラフィックと述べています。標準的な図表できるだけ多くのデータを示すようデザインされ、文章の流れの中に置かれるのに対し、スパークラインは簡潔、覚えやすく、それらが検討されるべき場所に置かれることを意図しています。
Severity Timelines (重大度タイムライン)	時系列グラフ上の位置としてイベントの重大度を表示するレポートのオプション。
Tap In Cloud Management Service (Tap In クラウド管理サービス)	システムとアプリケーション監視と管理を可能にする Tap In Systems が提供するサービス。そのサービスでは、Tap In 管理サーバへのアクセスと QuickView コンソールやレポートなどの Tap In アプリケーションが提供されます。
Tap In Management Server (Tap In 管理サーバ)	Elastic Compute Cloud (EC2) インスタンスとして Amazon Web Service (AWS) クラウド内で稼動する Tap In Systems のソフトウェア。Tap In 管理サーバはシステムや他の技術からのイベントをコンシューマプログラムで使うための中立な形式のイベントストリームに変換します。
Web Application (Webアプリケーション)	Web で構成設定とレポートを提供する Tap In 管理サーバのコンポーネント。

## 付録

### シェルコマンド

管理サーバインスタンスを開始するとき、すべての必要なサービスは開始し、あなたのインスタンスを構成およびコントロールするため **Web** アプリケーションが使用できるようになります。しかし、下記のように、シェルコマンドを発行する必要がある例外条件がある場合があります：

- イベントバスがメディアータやコンシューマアプリケーションに対して応答しない場合、イベントバスコンポーネントを再起動できます。
- Tap In 管理サーバのホストへのブラウザが開けないで、ネットワークのコネクションがOKと確認された場合、**Web** アプリケーションをリスターとできます。

### SSH セッション

SSH セッションパラメータを取得するため、SSH キーペアを取得して SSH か PUTTY セッションを開始するために Amazon Web Services ドキュメント内の手順

(<http://docs.amazonwebservices.com/AWSEC2/latest/GettingStartedGuide/index.html?running-aninstance.html>) に従ってください。

- ユーザ ID: **user1** でログインします。

### イベントバス コマンド

- イベントバスをリスタートするには、右のコマンドを投入します：**service tapin\_server restart**
- イベントバスを停止するには、右のコマンドを投入します：**service tapin\_server stop**
- イベントバスをスタートするには、右のコマンドを投入します：**service tapin\_server start**
- イベントバスの状態を表示するには、右のコマンドを投入します：**service tapin\_server status**

### Web アプリケーション コマンド

Web アプリケーションは **mongrel cluster** プロセスに **http** リクエストを分散するため、フロントエンド Web サーバとして **nginx** を使用します。

#### Mongrel\_Cluster

- **mongrel\_cluster** のリスタートには右のコマンドを投入します：**service mongrel\_cluster restart**
- **mongrel\_cluster** の停止には右のコマンドを投入します：**service mongrel\_cluster stop**
- **mongrel\_cluster** の開始には右のコマンドを投入します：**service mongrel\_cluster start**
- **mongrel\_cluster** の状態表示には右のコマンドを投入します：**service mongrel\_cluster status**
- **nginx** フロントエンドのリスタートには右のコマンドを投入します：**service nginx restart**
- **nginx** フロントエンドの停止には右のコマンドを投入します：**service nginx stop**
- **nginx** フロントエンドの開始には右のコマンドを投入します：**service nginx start**
- **nginx** フロントエンドの状態表示には右のコマンドを投入します：**service nginx status**